

平成22年度第1回国立大学法人埼玉大学経営協議会議事要録

日 時 平成22年6月9日(水) 10:00～11:55
場 所 事務局第一会議室
出席者 上井学長、丸山理事、加藤理事、川橋理事、堀理事
佐々木委員、土肥委員、中井委員、橋本委員、吉岡委員
欠席者 古賀委員、福田委員
陪席者 尾崎監事、檜枝監事、西田副学長、渋谷副学長、丹呉副学長、八木副学長、山口教育学部長、伊藤経済学部長、山口理工学研究科長、中林理学部長、佐藤工学部長

前回議事要録の確認

平成21年度第4回国立大学法人埼玉大学経営協議会(平成22年3月29日開催)議事要録(案)の確認が行われ、了承された。

報告事項

- 1 経営協議会委員について
学長から、平成22年7月末で任期満了となる学外委員の古賀委員について、継続して就任いただく旨の報告があった。
- 2 会計監査人の選任について
丸山理事から、本学の会計監査人として文部科学大臣からあずさ監査法人が選任された旨の報告があった。
- 3 平成22年度科学研究費補助金の採択状況について
川橋理事から、本学における科学研究費補助金の採択状況について報告があった。
- 4 平成21年度外部資金の獲得状況について
川橋理事から、本学における外部資金の獲得状況について報告があった。
- 5 地域産学官共同研究拠点整備事業について
川橋理事から、本事業において採択された埼玉次世代自動車環境関連技術イノベーション創出センターの設立準備状況について報告があった。

主な意見は次のとおり

科学研究費補助金獲得のために、申請書の書き方等に関する講習会を行っている機関が多くなっているが、埼玉大学の状況をお教え願いたい。また、申請者数を増やす

ためにどのような努力をされているのか。

研究支援のための経費について、基盤的経費が減少する中で、競争的経費のウエイトが大きくなってきているが、大学としてどの程度の額を目標とされているのか。

現下の社会経済情勢の中で、研究は直接役に立つことや社会が強く求めていることにシフトしがちで、長期的に取り組まなければならない基礎的研究はおろそかになりがちだが、埼玉大学はどういう状況にあるのか。

上記外部委員からの意見に対して、理事から、科学研究費補助金については、アドバイザー制度を採ることによって採択率の改善に成果を上げており、今後も様々な方策を整備していきたいこと、外部資金獲得の当面の目標は15億円程度と考えていること、学内における基礎的研究の活動支援として公募によるプロジェクト研究制度を採っていることなどが説明された。

審議事項

1 学長選考会議委員の選出について

学長から、国立大学法人法及び国立大学法人埼玉大学学長選考会議規則に基づき、学長選考会議の概要及び委員の選出について説明があり、継続いただく中井委員以外の4名の選出について審議の結果、佐々木委員、土肥委員、福田委員、吉岡委員に就任していただくことが了承された。

2 役員報酬規則等の一部改正について

丸山理事から、役員報酬及び教職員給与における地域手当の支給割合の引き上げについて説明があり、審議の結果、了承された。

3 平成21年度決算について

丸山理事から、平成21年度決算の概要について説明があり、審議の結果、了承された。

主な意見は次のとおり

研究者個人が受け入れる科研費は、その法人における本当の大学の活動度を表していると思うが、大学内ではどういう議論をされているか。

人件費削減というのは、限界に来ているのではないか。大学の教育研究活動をする上で必要な人員のスタンダードを打ち出して、主張していく時期に来ているのではないか。

上記外部委員からの意見に対して、理事から、今後すべての経費について検討し、大学の活動度を表す指標を示すようにしたいこと、人件費削減に関連して、良い研究・教育をするためには大学として何を目指すかについて現在検討に着手しはじ

めていることなどが説明された。

4 平成23年度概算要求について

丸山理事から、組織整備、特別経費（プロジェクト分及び基盤的設備等整備分）及び施設整備事業の各要求事項について説明があり、審議の結果、了承された。

5 平成21年度決算に係る目的積立金相当額の使用予定について

丸山理事から、平成21年度第4回経営協議会において了承された平成21年度決算に係る目的積立金相当額の使用予定の変更について説明があり、審議の結果、了承された。

6 平成20、21年度中期目標の達成状況報告書（案）について

西田副学長から、平成20、21年度中期目標の達成状況報告書の概要について説明があり、審議の結果、了承された。

7 現況分析における顕著な変化についての説明書（案）及び学部・研究科等の研究業績（案）について

西田副学長から、現況分析における顕著な変化についての説明書及び学部・研究科等の研究業績の概要について説明があり、審議の結果、了承された。

8 平成21事業年度に係る業務の実績及び中期目標期間に係る業務の実績に関する報告書（案）及び平成21事業年度（第6期）事業報告書（案）について

西田副学長から、平成21事業年度に係る業務の実績及び中期目標期間に係る業務の実績に関する報告書及び平成21事業年度（第6期）事業報告書の概要について説明があり、審議の結果、了承された。

主な意見は次のとおり

重点化をしてきた環境科学と脳科学の2研究センターは、グリーンイノベーション、ライフイノベーションに繋がるものであり、総合科学としての取り組みの観点から文理融合的な組織を目指してほしい。研究だけでなく、教育にも非常に良い影響が出て、面白い取り組みになるのではないだろうか。

研究費を獲得するだけでなく、外部から法学や文学の講師を呼んで、別の側面で議論させるなど、学生に刺激を与え、志を持たせるのにはどうすればいいかということ、教育の現場でもう少し議論しなければいけない。

上記外部委員からの意見に対して、理事から、今後さらに文理融合的で、創造的な研究分野を構築する観点をもって取り組んでいきたいことなどが説明された。

その他

1 次回日程（11月18日（木））

学長から、開催時間については、改めて各委員の都合を調整したい旨の連絡があった。

以上